# 愛知東邦大学 シラバス

| 開講年度(Year) | 2022年度 | 開講期(Semester) | 前期 |
|---|---|---|---|
| 授業科目名(Course name) | 東邦プロジェクトＤ | | |
| 担当者(Instructors) | 上條 憲二 | 配当年次(Dividend year) | 3 |
| 単位数(Credits) | 4 | 必修・選択(Required / selection) | 選択 |

**■授業の目的と概要(Course purpose/outline)**

この授業は個人の主体性を育むことを主たる目的としている。地域が抱える問題に対して、地域の知の拠点として何ができるか、学生が考え、解決策を企画し、提案し、実行する。一連の活動をアクティブラーニング視点に立って推進する。 なお、質問等の受付については、授業内に指示する。

**■授業形態・授業の方法(Class form)**

| | |
|---|---|
| 授業形態(Class form) | 演習 |
| 授業の方法(Class method) | 企画立案、プレゼンテーション、実施、課題抽出。 |

**■各回のテーマとその内容(Each theme and its contents)**

| 回数(Num) | テーマ(Theme) | 内容(Contents) | メディア区分(Media) |
|---|---|---|---|
| 第1回 | 授業の概要ブリーフィング | 授業内容説明。成績評価の方法。各自自己紹介。 | □ |
| 第2回 | 企画提案の進め方ガイダンス | 企画提案の進め方の基本原則を説明する。 | □ |
| 第3回 | 企画立案ブリーフィング | 愛知東邦大学として、地域社会の問題解決にどのように貢献できるかという視点で企画立案を行う。 | □ |
| 第4回 | 企画立案チーム編成 | 企画立案、推進の実行部隊としてのチームを編成する。チームリーダーを決める。 | □ |
| 第5回 | チームごとに企画立案 | 各チームごとに、愛知東邦大学の地域貢献企画を立案する。 | □ |
| 第6回 | チームごとに企画立案 | 各チームごとに、愛知東邦大学の地域貢献企画を立案する。 | □ |
| 第7回 | 企画プレゼンテーション | 企画案をメンバー全員に対してプレゼンテーションし、議論する。 | □ |
| 第8回 | 企画プレゼンテーション | 企画案をメンバー全員に対してプレゼンテーションし、議論する | □ |
| 第9回 | チームごとに企画推進 | 企画を具体化させる。 | □ |
| 第10回 | チームごとに企画推進 | 企画を具体化させる。 | □ |
| 第11回 | チームごとに企画推進 | 企画を具体化させる。 | □ |
| 第12回 | チームごとに企画推進 | 企画を具体化させる。 | □ |
| 第13回 | 企画推進状況中間発表 | 企画推進の状況を全員に対して中間報告し、議論する。 | □ |
| 第14回 | 企画推進状況中間発表 | 企画推進の状況を全員に対して中間報告し、議論する。 | □ |
| 第15回 | 企画修正、継続推進 | 企画案を修正し、継続的に推進する。 | □ |
| 第16回 | 企画修正、継続推進 | 企画案を修正し、継続的に推進する。 | □ |
| 第17回 | 企画推進 | 企画を継続推進する。 | □ |
| 第18回 | 企画推進 | 企画を継続推進する。 | □ |
| 第19回 | 企画結果報告 | 計画を一旦終了させ、評価点、課題点、今後の方針を発表する。 | □ |
| 第20回 | 企画結果報告 | 計画を一旦終了させ、評価点、課題点、今後の方針を発表する。 | □ |
| 第21回 | 企画結果、学内報告 | 企画内容、結果について、学内で報告プレゼンテーションする。 | □ |
| 第22回 | 新チーム編成。新企画立案 | 新チームを編成し、企画継続、もしくは新企画を立案する。 | □ |
| 第23回 | 新新企画立案 | 新チームによる企画立案。 | □ |
| 第24回 | 新企画立案 | 新チームによる企画立案。 | □ |
| 第25回 | 新企画内容プレゼンテーション | 新チームによる新企画をプレゼンテーションする。 | □ |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 第26回 | 新企画内容プレゼンテーション | 新チームによる新企画をプレゼンテーションする。 | □ |
| 第27回 | 新企画実施 | 新企画を推進する。 | □ |
| 第28回 | 新企画実施 | 新企画を推進する。 | □ |
| 第29回 | 新企画実施 | 新企画を推進する。 | □ |
| 第30回 | 全体総括 | プロジェクトを通じての評価点、問題点、課題点を明確にする。 | □ |

**■授業時間外学習（予習・復習）の内容(Preparation/review details)**

・日常生活の中で、地域が抱える問題について調べ、分析する。(毎週２時間) ・日常的に、新聞、読書を行い、社会の変化について視野を広く持つ。 ・企画推進において、絶えず、改善するための具体的な方法(企画内容、進め方、巻き込み方)を考える。(毎週2時間)

**■課題とフィードバックの方法(Assignments/feedback)**

・各自の企画発表、企画推進について、個別に意見・講評し、指導する。

**■授業の到達目標と評価基準(Course goals)**

| 区分(Division) | DP区分(DP division) | 内容(DP contents) |
|---|---|---|
| 主体性 | ◆ 2019全学共通DP3 | 多様な人々の中で自己を理解し、主体的に他者と協働して問題を解決することができる。 |

**■成績評価(Evaluation method)**

| 筆記試験(Written exam) | 実技試験(Practical exam) | レポート試験(Report exam) | 授業内試験（in-class exam) | その他(Other) |
|---|---|---|---|---|
| | | | 60% | 40% |

**授業内試験等(具体的内容)(Specific contents)**

「企画内容とプレゼンテーションの方法」を全体のテーマとし、毎回必ず一定の条件(文字数など)のもとで「課題」もしくは「質問」を提示する。それらの課題、質問に対する回答をもって、「出席」認定する。

**■テキスト(Textbooks)**

| No.(No.) | テキスト名など(Text name) | ISBN(ISBN) |
|---|---|---|
| 1 | なし | |
| 2 | | |
| 3 | | |
| 4 | | |
| 5 | | |

**■参考図書(references books)**

| No.(No.) | テキスト名など(Text name) | ISBN(ISBN) |
|---|---|---|
| 1 | 授業の中で紹介します。 | |
| 2 | | |
| 3 | | |
| 4 | | |
| 5 | | |